

看護部紹介

2019年度
新入職者



独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)

天草中央総合病院

病院の概要

理念 やさしさと思いやりのある医療をすべての患者様へ

基本方針

- 1 患者様の権利尊厳を重視し、安全な医療を実践します。
- 2 地域で信頼される適切な医療を提供します。
- 3 日々研鑽し、医療水準の向上をめざします。

病院長 芳賀 克夫 (HAGA YOSHIO)



職員数(病院) 約250名

病床数 155床

一般(急性期) 141床

地域包括ケア病床10床

結核病床2床

人間ドック2床

診療科

外科 内科 脳神経外科

産科 婦人科

放射線科 皮膚科

整形外科 麻酔科

歯科・口腔外科

当院の主な役割と特徴

⊕熊本県指定がん診療連携拠点病院 ⊕熊本県地域産科中核病院

⊕地域災害拠点病院・熊本DMAT指定病院

⊕第2種感染症指定医療機関

⊕日本医療機能評価機構認定病院

看護部の概要

理念 心を込めて信頼される看護を提供します

基本方針

- 1 患者様の気持ちを大切にし、満足していただけるよう努めます。
- 2 安全で快適な療養生活の提供に努めます。
- 3 地域と連携した看護を目指します。
- 4 日々研鑽し、看護の質の向上に努めます。

看護職員数(病院)

保健師	5名
助産師	13名
看護師	105名
准看護師	4名
療養介助員	16名

入院基本料

急性期一般入院料 4

(看護職員配置 10対1)

看護ケア提供システム

固定チームナーシング+プライマリー

部署

1階

- ・ 外来
- ・ 感染対策室
- ・ 医療安全管理室

2階

- ・ 2階病棟 (35床)
産科 婦人科 他
- ・ 地域連携室
- ・ 健康管理センター
- ・ 手術室 中央材料室

3階

- ・ 3階病棟 (58床)
外科、口腔外科、皮膚科 他
- ・ 地域包括ケア病床
- ・ 人間ドッグ

4階

- ・ 4階病棟 (60床)
内科 脳神経外科 放射線科 他
- ・ 感染症病床
- ・ 結核病床

特徴

- ⊕一般病床（急性期）で、基本的な看護技術について学ぶことができる。
- ⊕産科外来、産科病棟で妊産褥婦、新生児に関わる母性看護について学ぶことができる。
- ⊕地域包括ケア病床、附属施設として、さわやかランド（介護老人保健施設）、訪問看護ステーション、居宅介護支援センターがあり、退院支援を含め、地域包括ケアシステムについて学ぶことができる。

勤務体制

勤務時間 4週155時間勤務（4週8休制）

◎外来部門

勤務時間	日勤	8：00～16：45
------	----	------------

◎病棟部門

勤務時間	深夜	0：00～8：45
	日勤	8：00～16：45
	準夜	16：00～0：45

教育体制



教育方針

- 1 病院・看護部の理念・方針に基づいて、質の高い看護を提供できる看護師を育成する。
- 2 自己研鑽に努める看護師を育成する。
- 3 新人教育・現任教育・看護研究を教育の柱とし、それぞれの立場・役割を踏まえ、段階に応じた教育の機会を提供する。
- 4 社会の動向・医療環境を踏まえ、各自の地位・役割に応じた研修・学会参加の機会を提供する。
- 5 クリニカルラダーに基づいて、臨床看護実践能力が高められるよう、看護実践・管理・教育・研究に必要な知識・技術・態度に関する学習の機会を提供する。

目指す看護師像

- 1 自分の行う看護に誇りを持ち、職務を果たすことができる。
- 2 自分の職務に対して最善を尽くし、その結果に対しても誠実に向き合うことができる。
- 3 医療チームの一員として円滑な人間関係を保ち、チーム医療の充実を図ることができる。
- 4 専門職として自己研鑽に努めることができる。

JCHO天草中央総合病院 クリニカル・ラダー

レベルⅠ：新人、2～3年、中途採用 レベルⅡ：2～5年 レベルⅢ：4～6年 レベルⅣ：5～8年 レベルⅤ：6～10年以上

	定義	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
	JCHOのミッションに基づく統合的な目標	・助言のもとに安全な看護ができる ・組織の一員であることを自覚し、他者に対して丁寧な対応ができる	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアチームの一員として、看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的行動に参画できる	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる
	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い、必要に応じて助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別化看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
ニーズを捉える力	レベル毎の目標	助言を得てケアの受けてや状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受けてや状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受けてや状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえる
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◆ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◆得られた情報をもとに、ケアの受けての全体像としての課題をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性をふまえた必要な情報収集ができる ◆得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ◆意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆複雑な状況把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ◆ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
ケアする力	レベル毎の目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる ◆指導を受けながらケアの受け手に基本的な援助ができる ◆看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ◆ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ◆ケアの受け手の状況に応じた援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手の個性に合わせた、適切なケアを実践できる ◆ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる ◆ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズを把握し、幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる ◆複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
看護実践能力	レベル毎の目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる ◆助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる ◆助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる ◆ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる ◆連絡、報告、相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上で、それぞれと積極的に情報交換ができる ◆関係者と密にコミュニケーションを取ることができる ◆看護の展開に必要な関係者を特定できる ◆看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手の個別化ニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ◆ケアの受け手とケアについて意見交換ができる ◆積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ◆多職種間の連携が機能するように調整できる ◆多職種の活力を維持・向上させる関わりができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するための、自発的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる ◆多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割担うことができる ◆関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる ◆目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
意思決定を支える力	レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆがみを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手や周囲の人々の思いや考えを意図的に確認することができる ◆確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ◆ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを理解できる ◆ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆適切な資料を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる ◆法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
遂行能力	レベル毎の目標	組織の理念、ミッションを理解し、組織の一員としての自覚を持つ	組織の一員としての役割を理解し、目標達成に向け主体的に取り組む	所属部署の目標を意識した行動をとる	日常業務や看護単位でのリーダーシップがとれる	組織全体を見渡しつつ看護職の専門性と役割をふまえ、関連部署、他職種、地域関連施設との連携を図る
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆挨拶、報告、連絡、相談、自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆業務の管理を自立して行うことができる ◆小さな気づきについても自ら問題提起することができる ◆健全な経営の理解につながるコスト感覚を身につけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆患者全体、スタッフ全体に注意を払い、看護単位においてリーダーシップが発揮できる ◆チームの目標達成に向けて、割り当てられた役割が遂行できる ◆診療報酬制度等を踏まえながら医療対策に関心をもち、医療全体を考える視点を持つことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護職の目標、看護単位の目標のための活動を推進することができる ◆各委員会活動のメンバーとして活躍できる ◆職場の業務改善のリーダーシップがとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆医療対策や診療報酬制度、および地域ニーズを踏まえて看護職のとるべき行動を表現できる
教育	レベル毎の目標	自己の教育課題を助言によって発見できる	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	継続的に教育活動を展開する	所属部署の教育活動において指導的役割を果たす	組織的教育的活動における指導的役割を果たす
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆必要な知識・技術を主体的に学習できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆院内教育(研修会)などに積極的に参加できる ◆院内研修を生かし看護を実践できる ◆学生の学習目標に沿った教育・指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育活動の成果を所属部署に伝達することができる ◆自己のキャリアを展望し、専門領域に関する学習に取り組める 	<ul style="list-style-type: none"> ◆専門分野に関して知識を深めて、スタッフに指導できる ◆専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組める ◆組織ニーズを意識した自己のキャリア形成像が描ける 	<ul style="list-style-type: none"> ◆専門領域や高度な看護技術等についての自己の学習活動を推進する ◆地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する
研究	レベル毎の目標	看護研究に関心をもち、看護研究の必要性と基礎が理解できる	自己の研究課題を明確にし、研究課題に取り組む	所属部署における研究活動のリーダーシップがとれる	所属部署における研究活動において指導的役割を果たす	組織的研究活動を実践する
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆助言を受けながら看護研究活動に参加できる ◆日常の看護実践において看護とは何かを考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自身の看護実践を振り返り、事例検討ができる ◆看護研究の基礎と方法を理解し、指導の下、看護研究メンバーとして活動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護研究とその方法を理解し、所属部署における研究課題を見だし、研究計画を立て積極的に研究に取り組むことができる ◆所属部署の研究活動のリーダーシップを発揮できる ◆研究を通じて看護を深め、自己の看護観を考察することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆研究活動を自己の看護実践に活かすことができる ◆専門分野における研究に取り組み、成果を発表できる ◆看護研究におけるクリティークを習得し、研究活動に活かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆クリティークを修得し、研究活動に活かすことができる ◆自己の専門分野において専門性を発揮する
社会性	レベル毎の目標	組織人としての接遇を身につけることができる	相手を尊重した円滑なコミュニケーションができる	相手の立場や役割を理解し、アサーティブな関わりができる	相手の立場を尊重し、アサーティブなコミュニケーションをとることができる	互いを尊重しながら、合意形成できる職場風土を醸成できる
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の思いや考えを他者に伝えられ、また他者の考えや意見をよく聞き尊重することができる ◆困っていること、悩みについて同僚やプリセプターに相談できる ◆コミュニケーション技法を知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分およびチームメンバーの立場や役割を認識し、相互に肯定的な関わりができる ◆自己の感情、思考、行動の傾向を理解し、コミュニケーションをとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆チームで仕事をする上で、相手を気遣い、良好な人間関係を保つことができる ◆自己の感情がコントロールでき、相互関係を深めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆相手を尊重したよい人間関係を築きながら自分の考えを話すことができる ◆相手の立場や人間性を尊重し、人間関係が調整できる ◆院内はもとより、他施設や地域とのネットワークを広げ、活動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆他の医療チームとの信頼関係を保ち、協働・調整ができる ◆院内外にネットワークをもち、共通目標達成に向けての活動ができる
看護倫理	レベル毎の目標	看護における倫理原則が理解できる	看護実践の中で、倫理的問題の背景・価値の対立に気づくことができる	患者の倫理的意思決定支援を支えることができる	発生している倫理的ジレンマの解決に向けて行動できる	対象の生命観・死生観・倫理観を尊重し、アドボケートとしての役割を果たすことができる
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆日々の看護実践の中の倫理的問題に気づくことができる ◆個人情報保護に基づいた対応ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆助言を受けながら、インフォームドコンセントにおける看護職の役割を果たすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インフォームドコンセントにおける看護職の役割を果たすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆倫理的意思決定が必要な場面で、相手を支援することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実践における倫理的な諸問題に気づき、他者と意見交換して問題解決につなげることができる

部署紹介

手術室



2階病棟



3階病棟



4階病棟



部署紹介



健康管理センター



外来



さわやかランド(介護老人保健施設)



部署紹介

訪問看護ステーション



医療連携室



医療安全管理部・看護部



居宅介護支援センター



スペシャリスト

がん放射線療法看護認定看護師

松本 恵里子



放射線治療は、治癒を目指した根治的治療から除痛のような緩和治療まで多様な効果が期待できます。しかし、いったん治療が開始されると予定された日数の治療を最後まで継続しなければ治療効果を得ることのできない治療です。放射線治療の意思決定段階から、医師や診療放射線技師と協働し、患者様が安心して治療を継続できる環境を整えるとともに、心理面や有害事象対策を中心とした質の高い看護を実践していきたいと思っております。



がん化学療法看護認定看護師

須崎 了子

がん化学療法は、がんの早期から終末期まであらゆるがん腫に対して行われます。長い治療期間の中で、患者様や御家族が安心して納得のうえ治療を受けること決定し、自分らしい生活と両立させて治療が継続できるよう、多様なニーズに対応した全人的ケアを提供しています。また、がん化学療法を安全・安楽・確実に実践するため、チーム医療として医師や薬剤師など多職種と連携・協働し、システム整備やケア向上に努めています。

がん性疼痛看護認定看護師

宮川 まゆみ



がん性疼痛認定看護師として主に薬剤の鎮痛効果や投与経路、副作用を評価し、個々に合わせた疼痛コントロールができるようにと常に考えています。

患者様に合わせた治療ができるように医療チーム内で情報共有し、少しでも痛みのある患者様の苦痛軽減のために、関わっています。



感染管理認定看護師

荒木 直美

2010年に感染管理認定看護師の資格を取得し、現在は専従で感染防止対策室に勤務しています。近年、感染症を取り巻く状況は日々変化しています。その変化に対応するため、感染制御チームのメンバー（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師）と共に感染対策の検討や定期的な巡視を行い院内の感染防止に努めています。今後も、患者や職員、来院される全ての方を感染症から守ることをモットーに、活動の幅を広げ、よりよい感染対策を推進していきたいと考えています。



感染管理認定看護師

坂本 陽子

私が感染管理認定看護師の資格を取得したのは2015年です。660時間という長い教育課程は厳しいものでしたが、修了できたのは職場や家族が全面的にサポートしてくれたおかげです。現在は、内科病棟に勤務しながら「医療を提供する場で働くあらゆる人々および患者とその家族を医療関連感染から守る。」という役割で、最新の専門的知識・技術を用いながら感染防止に努めています。毎日が充実しています。



緩和ケア看護認定看護師

川上 ゆみ

がんと診断された時から、患者様とご家族の苦悩は計り知れないものがあると感じています。がんによる痛みやご家族の苦悩に寄り添いながら、専門的知識と技術に基づき全人的ケアを提供します。全人的ケアとは、痛みなどの身体的痛み、不安などの精神的痛み、仕事や家族などの社会的痛みに対してのケアのことをいいます。がんとともに生きる方のサポートをさせていただきながら、人としての尊厳や命の尊さを日々学んでいます。



リンパ浮腫療法士

山川 由子

リンパ浮腫についてみなさんは御存じでしょうか。リンパ浮腫は、手術でリンパ節をとったり、放射線治療をした後に発症することがあり、足や手の腫れが日常生活に影響して、身体的精神的苦痛やQOLの低下を招きます。私が担当するリンパ浮腫外来では、リンパ浮腫の患者様に対して、スキンケア・用手的リンパドレナージ・圧迫療法・圧迫下での運動療法・日常生活指導を行い、症状緩和を行います。重症例に関しては入院で対応する事があります。施術に時間を要する為人数が限られますが、より多くの患者様の対応ができるよう努力していきたいと思っています。

Message

～毎日が学びです～

看護師：田中 季恵（入職2年目 熊本駅前看護リハビリテーション学院 看護学科卒）
看護に対する不安や新しい環境に対する緊張で初めは、先輩達についていくことが精一杯でした。日を重ねるごとに自分ができる技術が多くなっていく反面、まだまだ学習不足な時があり、未熟に感じる場面がありました。患者さんと接する際は笑顔を忘れないようにしました。終末期の患者を受け持つ際、大きな壁にぶつかることもありましたが先輩達にひとつひとつ丁寧に教えていただきました。毎日が学びです。

～やりがいを感じながら働いています～

助産師：益田 知恵（入職2年目 天草市立本渡看護専門学校・熊本看護専門学校助産学科卒）
入職当初は、何もかもが初めてで戸惑うことが多くありました。しかし、多くのサポートを得ながら知識や技術を学ぶことができ、少しずつですができることも増えやりがいを感じながら働くことができています。今後は、自分が行う業務に責任を持ち一人前の助産師となるよう日々努力していきたいと思います。



～充実した日々を送っています～

看護師：濱田 望美（入職2年目 原学園原看護専門学校卒）
外科・脳神経外科・口腔外科の混合病棟で勤務しています。新人教育や先輩指導の下で増える新しい知識や技術、患者さんや他のスタッフとのコミュニケーションにより充実した日々を送っています。今後、患者さんとの関わりを通して、看護の知識を深めスキルアップしていきたいです。

～やりがいと楽しさを感じます～

看護師：山口 知佳（入職2年目 天草市立本渡看護専門学校卒）
毎日が不安と緊張の気持ちでいっぱいでした。少しずつ一人でできることが増え今は仕事へのやりがい、楽しさを感じています。これからも多くの経験を積み、報告・連絡・相談を怠らずにスタッフの一員として日々努力していきたいです。